

令和4年度 第1回学校運営協議会 議事録

令和4年5月31日(火) 10:00~12:00 岡山県立岡山支援学校 会議室
学校運営協議会委員15名 学校8名

【今年度の学校経営計画】 に関して→承認

委員

(意見) 在校当時(S.50年代) 学年30人、寄宿舎30~60人と多かった。
在籍数も寄宿舎入舎数も減少しているということだが、全国的に施設ではなく地域へということが推奨されていることを踏まえて、地域に住むとなった場合、身の回りことや生活をどうするかということが上がってくる。自身、中2~高3まで入寮した中で、全介助だった衣服の着脱やトイレが、時間はかかるが、できるようになった。一人でできることが増えた。生活する力をつけるための時間が要る。当初、入舎に反対だった親も驚いた。寄宿舎という『生活する力をつける』場としての位置づけを強調してはどうか。

(意見) 居住地校交流。通常学級だけでなく、特別支援学級との交流を糸口にすると実施しやすいかもしれない。

委員

(質問) コミュニティ・スクールとは、具体的に何をどうしていくのか？

事務局

(回答) 今年度立ち上げたばかり。まだ、手探り状態で確実な方向性を見いだせていないのは事実。今年度、2つのことを重点に考えている。

- ① 学校評価が次に活きるように、校内だけでなく、吉利委員(岡山大学教授)のアドバイスや他の委員の力を借りながら、カリキュラムマネジメントを進めていく。
- ② 安全研修を計画している。地域、大学、施設と連携しながら、より充実したものとしていきたい。片山委員には、2年後入学予定の呼吸器使用の児童の受け入れに関してアドバイスをお願いしたい。

委員

(意見) 岡山市立の小中学校では、すでに全校、コミュニティ・スクールが始まっている。高島中、牧石小の校長に様子を聞くのはどうか。

委員

・岡山市立の全中学校区で、「地域協働学校運営協議会」を立ち上げている。学校教育基本計画や教育方針を伝える中で地域や保護者の方々から意見をもらい、地域に敬愛される学校になるために、学校の進んでいく方向性に対して、貴重な意見がもらえる。学校の中ではあたりまえに思っていることが、外部の方々からの率直な意見で、盲点があったことに気づかされることもあった。教育委員会に対して、学校運営協議会から意見具申もで

きる。

委員

- ・小学校でも学校運営協議会の委員を委嘱して取り組んでいる。学校運営の方針、教育実践の総括、人事に至るまで、校長に意見できる。年度末には、評価を行い、委員の意見をしっかり学校運営に反映させている。コロナ禍、学校行事において来賓は招いていない。しかし、先日の運動会等、協議会の委員として、来校してもらい子ども達の様子を見てもらっている。
- ・岡山市立の小中学校は、全ての中学校区で「地域協働学校」を設置している。各校単位の学校運営協議会の内容を中学校区で連携することで、小中のつながりをもつという、岡山市の取り組み。

委員

(意見) 一番の根本は、岡山支援の子ども達がどのような将来を描けるか、ということをおさえること。親の思いもあるが、通常の小中高(大)と進んできて、そこから先でつまづく人が非常に多い。相談も受けている。その子の人生にとってどういう進路選択がいいのか。そこへどう関わっていくのかという点で支援学校の教育は意味がある。支援学校に来るばかりが全てではないが、子どもの将来の人生を考えた時、いろいろな選択肢がしっかり提示できる、アナウンスできることが必要。寄宿舍を利用するメリット、まだまだ、みんな知らない。その良さをいかに幅広く、伝えていくのか。そういった作業が必要。

【学校評価】 に関して

委員

(意見) 放デイでの何人かの保護者の話題。「小中高それぞれで求めるところは違う。統一的なアンケートだと中途半端で答えがよく分からなかった。」アンケートの内容について、全校統一な項目と、学部ごとで求めることの項目で分けた方が、より保護者として答えやすいのではないか。

【安全研修】 に関して

委員

- (意見) 防災研修の旭川荘からの参加者が一人だが、可能であれば、児童院の代表、Dr.の代表等も参加できるとよい。参加者の選定をもう一度お願いしたい。
- (意見) 研修した内容を、校内の他の教員も共有できるようにすることが必要。

委員

(意見) 旭川荘療育医療センターの防災担当者の方に話をしておく。詳しい実施計画等が出来上がったら欲しい。